

# 脳循環代謝の研究発表

## 岐阜市で学術集会始まる

第64回日本脳循環代謝学会学術集会が12日、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で始まった。脳卒中や新型コロナウイルスと神経疾患など多彩なテーマの講演やシンポジウムが行われて

いる。13日まで。

県内では初めての開催。2日間で約140の演題が発表される。新型コロナウイルス対策として、視聴用の3会場と講演会場とを分け、オンラインで各会場をつないで実施。同時にオンライン配信も行い、約360人が参加した。

開会式では今回の会長を務める原英彰岐阜薬科大学長が「源流と新たな潮流の

融合がテーマ。最先端の研究を知ってもらい、日々の診療や研究につなげてほしい」とあいさつした。講演やシンポジウムでは、脳循環代謝研究の現状や展望、最先端医療や新薬への取り組みなど幅広い演題が発表され、それぞれの会場で活発な質疑応答があった。

今年には新型コロナウイルスを取り上げた演題もあり、岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野の下畑享良教授は新型コロナウイルスと神経疾患をテーマに多彩な神経筋症状や合併症が認められると指摘。「ワクチン接種後の後遺症や副反応には脳神経症状が多く、研究を推進する必要がある」と説いた。

(武藤直子)



視聴用会場から講演会場の登壇者らへ画面越しに質問する参加者＝岐阜市長良福光、長良川国際会議場